

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	17-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Has the role of personal income in alcohol drinking among teenagers changed between 1983 and 2013: a series of nationally representative surveys in Finland.</p> <p>1983-2013 年に若者の飲酒へ投資する可処分所得は変化したか：フィンランドの一般住民を対象としたコホート研究より</p>		
執筆者		
Lintonen T, Nevalainen J.		
掲載誌		
BMJ Open. 2017 Apr 17;7(4):e013994. doi: 10.1136/bmjopen-2016-013994.		
キーワード		PMID
青年、アルコール、所得		28416499
要 旨		
<p>目的： 経済状況は青年期におけるアルコール摂取量と強く関連する。青年期の飲酒頻度と可処分所得との関連について検討した。</p> <p>方法： 1983-2013 年に毎年実施された横断研究 (Finland Adolescent Health and Lifestyle Survey) に参加した 14 歳の男女 33,771 名を対象に、自記式質問票による調査を行った。飲酒頻度は、「毎週飲む」「毎月飲む」「時々飲む」「ほとんど飲まない」「飲まない」の選択肢とした。可処分所得は、「自由に使えるお金は週平均いくらですか？（住居、服飾、食費を除く）」という質問の回答により 17€以上、10-16€、7-9€、5-6€、3-4€、2€未満に分類した。データ欠損者を除外した 29,274 名（男子 13,543 名、女子 15,731 名）を対象に、多項ロジスティック回帰分析により、可処分所得による飲酒オッズ比 (OR) および 95%信頼区間 (95% CI) を算出した。</p> <p>結果： 調査実施年によって差があるものの、アルコール摂取量は「ほとんど飲まない」20-30%、「時々飲む」10-20%、「毎月飲む」5-10%、「毎週飲む」2%未満程度で推移した。週当たりの可処分所得は、3-4€または 5-6€が多く、どちらも約 20-30%で推移した。男女ともに、「毎週飲む」「毎月飲む」の OR は、2€未満と比較して可処分所得が上昇するほど有意に上昇した。男子において、可処分所得が週 17€以上は、2€未満と比べ、「毎週飲む」(OR 14.58, 95%CI 6.82-31.17)、「毎月飲む」(OR 9.01, 95%CI 6.25-12.97) リスクが有意に高かった。女子においても、17€以上は、2€未満と比べ、「毎週飲む」(OR 14.17, 95%CI 7.06-28.48)、「毎月飲む」(OR 6.63, 95%CI 5.01-8.78) リスクが有意に高かった。しかしながら、これらの可処分所得と飲酒量の関連 (γ 係数) は、1999 年まで 0.2-0.3 を推移していたが、2001 年以降は 0.1-0.2 程度まで低下してきた。</p> <p>結論： 可処分所得が多いほど青年期の飲酒量が多くなると考えられたが、近年その関連は弱まりつつある。</p>		